

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
植村健一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	人間関係論 作業療法概論 作業療法評価学Ⅱ 見学実習 臨床評価学 地域実習 評価実習 臨床実習
池田真一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	運動学 作業療法概論 見学実習 臨床評価学 高次脳機能作業療法学 作業療法評価学Ⅱ 地域作業療法学 地域実習 評価実習 臨床実習
満吉幸一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	基礎作業学 臨床評価学 見学実習 作業療法概論 作業療法評価学Ⅰ 高齢期作業療法学 地域実習 評価実習 臨床実習
荒田美穂	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	機能解剖学 作業療法概論 見学実習 発達作業療法学 社会生活行為学 臨床評価学 地域実習 評価実習 臨床実習
橋口信洋	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	作業療法概論 末梢神経作業療法学 見学実習 義肢装具学 中枢神経作業療法学 作業療法管理学 臨床評価学 地域実習 評価実習 臨床実習
園屋和之	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	精神医学 作業療法概論 見学実習 精神機能作業療法学 地域実習 臨床評価学 評価実習 臨床実習

教育課程及び授業時数

専門課程(医療分野) (授業科目及び単位)

作業療法学科							
区分	科目	規定単位	計画	1学年	2学年	3学年	実務
			単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	教育学	2 (30)	2(30)			
		物理学	2 (30)	2(30)			
		医療倫理学	1 (15)	1(15)			
		医療統計学	2 (30)	2(30)			
		医学英語	2 (30)	2(30)			
		人間発達学	2 (30)	2(30)			
	人間関係論	7 (210)	3(90)	4(120)		○	
小計		14	18 (375)	14(255)	4(120)		
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学	4 (60)	4(60)			
		運動学	4 (60)	4(60)			○
		機能解剖学	6 (120)	6(120)			○
		生理学	8 (120)	8(120)			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	2 (30)	2(30)			
		病理学概論	2 (30)	2(30)			
		内科学	4 (60)	4(60)			
		整形外科学	4 (60)		4(60)		
		神経内科学	4 (60)	4(60)			
		精神医学	4 (60)	4(60)			○
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉学	2 (30)		2(30)		
		医学概論	2 (30)	2(30)			
小計		30	48 (750)	40(630)	8(120)		
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	3 (90)	2(60)	1(30)		○
		作業療法概論	4 (60)	4(60)			○
		基礎作業療法学演習	5 (150)			5(150)	○
		専門作業療法学演習	5 (150)			5(150)	○
	作業療法管理学	作業療法管理学	2	2 (30)		2(30)	○
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	4 (120)	4(120)			○
		作業療法評価学Ⅱ	4 (120)		4(120)		○
		臨床評価学	8 (240)		8(240)		○
	作業療法治療学	発達作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		中枢神経作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		末梢神経作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		精神機能作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		高齢期作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		高次脳機能作業療法学	2 (30)		2(30)		○
		義肢装具学	3 (60)		3(60)		○
	地域作業療法学	社会生活行為学	4	3 (60)		3(60)	○
		地域作業療法学	4	3 (60)		3(60)	○
	臨床実習	見学実習	22	1 (45)	1(45)		○
		地域実習	22	1 (45)		1(45)	○
評価実習		22	3 (135)		3(135)	○	
臨床実習		22	18 (810)			18(810)	○
小計		57	89 (2505)	11(285)	50(1110)	28(1110)	
合計		101	155 (3630)	65(1170)	62(1350)	28(1110)	

【授業概要】 「教育が必要な唯一の動物」とされる人間、その人間にとって教育の必要性和教育のもたらす意義と影響を学びつつ、人生における教育の重要性を認識させる。

【到達目標】 教育分野の多様性を理解させ、その実践的場面を通じた人間愛を学び、それを将来の職業や家庭生活を通じたあらゆる場面で実践的に活かせることを目標にした。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	教育概論・教育の語義と意味	荒武
2	教育的存在としての人間	荒武
3	教育と人間(教育の必要性)	荒武
4	医学的見地からの教育	荒武
5	西洋と日本の子ども観	荒武
6	日本の子ども観の変遷	荒武
7	少子高齢化社会の教育	荒武
8	家庭の教育と意義	荒武
9	戦前の家庭教育	荒武
10	戦後の家庭教育	荒武
11	家庭・家族関係の変化	荒武
12	学校教育の現況と対処	荒武
13	職場・地域社会の教育	荒武
14	コンピュータ社会と教育の課題	荒武
15	現代教育の問題点と将来への展望	荒武
16	定期試験	荒武

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「教育原理 第2版」(ミネルヴァ書房)

【参考図書】 必要に応じてプリント配布

【評価基準】 定期試験80% 小レポート・授業態度20%

【授業概要】 物理学全体の基礎的な内容を学び、論理的な考え方を習得する。作業療法では、力と運動、電磁波、波、熱、放射線などの物理的性質を利用している。これらの性質がしたがう物理法則を理解し、使い方を習得することによって現象を原的に理解し、活用する力を養う。

【到達目標】 物理学の基本的な用語と物理法則の意味を理解する。
物理法則の使い方を習得し、論理的な考え方を養う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	基本単位と組立単位、指数の計算、有効数字	古川
2	数式とグラフ、三角関数、ベクトルの計算	古川
3	速度、加速度、等速直線運動、等加速度運動	古川
4	力と単位、重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力	古川
5	力の合成とつり合い、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則	古川
6	剛体の回転運動、力のモーメントのつり合い、重心	古川
7	運動量と力積、仕事と仕事率、力学的エネルギー保存の法則	古川
8	温度、熱膨張、比熱と熱容量、物質の三態、熱の伝わり方	古川
9	波の特徴、横波と縦波、干渉、反射、屈折、回折	古川
10	音、音速、音の高さや大きさ、ドップラー効果、光、光の強さ	古川
11	静電気力、電場、導体・不導体・半導体、電位、コンデンサー	古川
12	電流、抵抗、電気回路、合成抵抗、アース、電力と電力量、直流と交流	古川
13	磁気力、磁場、ローレンツ力、モーターの仕組み、電磁誘導、電磁波	古川
14	原子の構造と種類、放射線、半減期、放射能の単位、原子力エネルギー	古川
15	まとめと演習	古川
16	定期試験	古川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT ゼロからの物理学」(羊土社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験70% 授業態度30%

【授業概要】 生命・医療倫理の基礎的知識を学習した上で、医療の進歩とともに生じてきた倫理的問題を検討する。

【到達目標】

将来、チーム医療の一員として倫理的問題に直面した際、その時点での「患者にとってより良い医療」とは何かを自ら考え、より良い解決方法を探求しないといけない。そのためには、この講義で、生命・医療倫理の基礎的知識を身につけ、倫理的問題の検討を通じて、その諸問題にまつわる多様な視点・論点を学び、自らの考えを言葉にしていけるよう、考察をして欲しい。そこには、医療を学ぶ者としての立場からだけではなく、常に、自分が患者や患者家族の立場だったら? という視点を併せ持って、考察できる感性を身につけて欲しい。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	生命倫理学・医療倫理学とは	山口
2	インフォームド・コンセント	山口
3	生殖に関わる倫理	山口
4	安楽死	山口
5	脳死と臓器移植	山口
6	医療資源の配分問題	山口
7	身体拘束・抑制	山口
8	終末期医療に関わる倫理	山口
9	定期試験	山口

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「はじめて出会う生命倫理」(有斐閣アルマ)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験60% レポート40%

【授業概要】 医科学領域において、とくに有益であると思われる統計学の基礎的な概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】 数学の理解には練習問題を解くことが大切である。教科書にそった具体的な問題も多く解いて学習する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	尺度の度数分布表の作り方	竹下
2	度数分布図の作成	竹下
3	代表値(1) 算術平均・幾何平均・調和平均	竹下
4	代表値(2) 中央値・最頻値	竹下
5	散布度(1) 標準偏差	竹下
6	散布度(2) 四分位偏差	竹下
7	相関と回帰(1) 相関係数	竹下
8	相関と回帰(2) 回帰直線	竹下
9	確率・順列・組み合わせ	竹下
10	確率分布(1) 正規分布	竹下
11	確率分布(2) カイニ乗分布・二項分布 他	竹下
12	母集団推定値の推定(1) 母平均の推定	竹下
13	母集団推定値の推定(2) 母平均の区間推定	竹下
14	仮説検定	竹下
15	まとめ	竹下
16	定期試験	竹下

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「やさしい保健統計学」(南江堂)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験80% レポート10% 授業態度10%:積極的な授業への参加

【授業概要】 ヒトの発達について、発達段階に従ってそれぞれの特徴について概説していく。とくに変化のおおきい発達の初期から青年期までを取り上げる予定である。

【到達目標】 発達初期から青年期までの人間発達の各時期の特徴について説明することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	ヒトの発達の特徴	木下
2	発達の様相／胎生期について	木下
3	新生児期の特徴	木下
4	アタッチメント①：親子関係の基盤	木下
5	アタッチメント②：愛着行動の発達と個人差	木下
6	乳児期における認知発達	木下
7	言語発達(おもに乳児期)	木下
8	幼児期における運動・認知の発達	木下
9	幼児期における社会性の発達	木下
10	児童期の特徴	木下
11	青年期の特徴：身体発達と社会学的見方	木下
12	青年期の心理的発達：アイデンティティの問題	木下
13	発達障害と特別支援教育	木下
14	発達の要因：遺伝と環境／発達データの見方	木下
15	総まとめ	木下
16	定期試験	木下

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「生涯人間発達学」(三輪書店)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 作業療法臨床実習にて必要な基本的なコミュニケーションの考え方、技術に関する内容を学び、臨床実習中に求められる未知の知識を探索しブルームの教育目標分類の認知的領域の理解レベルまでを経験する。

【到達目標】 患者に対して適切な身なり、言葉使いにて説明し、患者の訴えや予後についての質問に適切な対応をして傾聴しながら自然な会話をすることが出来る。解剖学、生理学、運動学のテキストを用い、問題を解決するためのヒントを用いながらテキストを探索し、他者に問題解決のプロセスを説明し、問題解決のプロセスを理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	リアリティショック、作業療法学生に必要なコミュニケーション能力、メタ認知に関して	植村
2	自分を知る 自己肯定感 自分と性格と知る(エゴグラム)	植村
3	聴く力について 傾聴に必要な心構え 繰り返しトレーニング	植村
4	傾聴トレーニング 要約トレーニング 質問トレーニング	植村
5	コミュニケーション技法(OSCE課題) 動画視聴、デモンストレーション	植村
6	コミュニケーション技法の形成的評価 学生同士による評価	植村
7	パルスオキシメーターの値の意味の考察 発問・調査	植村
8	考察のまとめと確認 ポスター掲示 ポスター見学、発表、フィードバック	植村
9	門脈の解剖についての考察についての発問	植村
10	考察のまとめと確認 ポスター掲示 ポスター見学、発表、フィードバック	植村
11	高齢者の骨折で橈骨遠位端骨折や椎体骨折が多いことについての考察についての発問	植村
12	考察のまとめと確認 ポスター掲示 ポスター見学、発表、フィードバック	植村
13	コミュニケーション技法の実技試験	植村
14	コミュニケーション技法の実技試験	植村
15	コミュニケーション技法の実技試験	植村
16	筆記試験	植村

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「これで安心PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド」(医学書院)

「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」(金原出版)

【参考図書】

【評価基準】 筆記試験(論述試験、ループリック評価にてパフォーマンス評価 ※指定するテキスト持込可) 50%

実技試験 コミュニケーション技法OSCE課題 50%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上

【授業概要】 臨床実習にて必要な基本的なコミュニケーションの考え方・技術に関する内容を学び、臨床実習で経験する社会的態度の基礎を養う。有資格者に求められる成熟した学習者の礎を築くべく、国家試験の出題範囲内容を用いながら、発問に対して個人、集団にて解決しながら知識の習得とその応用を経験する。

【到達目標】 臨床実習場面で必要なコミュニケーション技法を経験し、今後の臨床実習にての応用に役立てる。
国家試験問題の選択肢の除外・選択理由をあらかじめ収集した資料・テキストから探索し授業による解説も統合して理解したことを説明することが出来る。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	自己紹介とあいさつ の方法と練習	植村
2	要約トレーニング 質問トレーニング	植村
3	要約トレーニング 質問トレーニング	植村
4	質問トレーニング 答えにくい質問への応答法	植村
5	質問トレーニング コーチングテクニックを利用して	植村
6	COPM面接(半構造化面接)練習	植村
7	COPM面接(半構造化面接)練習	植村
8	COPM面接(半構造化面接)練習	植村
9	COPM面接(半構造化面接)練習	植村
10	療法士面接 動画視聴と練習	植村
11	療法士面接 練習	植村
12	療法士面接 練習	植村
13	大脳の動脈の血管走行 ウィリスの大脳動脈輪	植村
14	大脳の機能(運動と感覚) 水平断高位と前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳基底核などの関係性	植村
15	大脳画像から予測される機能障害を推測する	植村
16	大脳画像から予測される機能障害を推測する	植村
17	腕神経叢と腰神経叢、仙骨神経叢と髄節レベルの関係に関して 上下肢末梢神経名と筋の関係について	植村
18	上下肢筋の位置関係から髄節レベルを特定する 上下肢筋の位置関係から支配神経名を特定する	植村
19	内分泌ホルモン(インスリン)の正常機能から糖尿病の病態を考える	植村
20	内分泌ホルモン(カルシトニンとパラソルモン)の正常機能から骨粗鬆症の治療を考える	植村
21	血液ガスの基礎 酸塩基平衡	植村
22	血液ガス 酸塩基平衡 演習	植村
23	心電図の基礎 上室性期外収縮、心房粗動、心房細動	植村
24	心電図 心室性期外収縮、心室粗動、細動、房室ブロック(I・II・III)	植村
25	心電図 読影演習	植村
26	療法士面接 客観的臨床能力試験	植村
27	療法士面接 客観的臨床能力試験	植村
28	療法士面接 客観的臨床能力試験	植村
29	筆記試験(国家試験問題、類似問題)	植村
30	見学実習オリエンテーション 電話のかけ方 実習目標などの確認	植村
31	見学実習オリエンテーション 個人情報保護 スケジュール管理	植村

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド」(医学書院)
「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」(金原出版)

【参考図書】

【評価基準】 筆記試験(13回目からの内容)50% 実技試験(療法士面接)50%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上

科目名： 解剖学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂恵理

通年 4単位

【授業概要】 主にパワーポイント、問題集を用いて講義をする。問題集を使用する際には、あてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 構造と機能を理解し、臨床にも応用できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	循環器系①	赤坂
2	循環器系②	赤坂
3	循環器系③	赤坂
4	循環器系④	赤坂
5	呼吸器系①	赤坂
6	呼吸器系②	赤坂
7	呼吸器系③	赤坂
8	呼吸器系④	赤坂
9	消化器系①	赤坂
10	消化器系②	赤坂
11	消化器系③	赤坂
12	消化器系④	赤坂
13	内分泌系①	赤坂
14	内分泌系②	赤坂
15	内分泌系③	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学」(羊土社)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験80% 授業態度20%

科目名： 解剖学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂恵理

【授業概要】 主にパワーポイント、問題集を用いて講義をする。問題集を使用する際には、あてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 構造と機能を理解し、臨床にも応用できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	泌尿器系①	赤坂
2	泌尿器系②	赤坂
3	泌尿器系③	赤坂
4	泌尿器系④	赤坂
5	神経系①	赤坂
6	神経系②	赤坂
7	神経系③	赤坂
8	神経系④	赤坂
9	神経系⑤	赤坂
10	神経系⑥	赤坂
11	神経系⑦	赤坂
12	感覚器系①	赤坂
13	感覚器系②	赤坂
14	感覚器系③	赤坂
15	感覚器系④	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学」(羊土社)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験80% 授業態度20%

科目名： 運動学(前期)

授業形態： 講義・演習

担当教員： 池田 真一

通年 4単位

【授業概要】 運動の遂行に必要な骨や関節、筋、神経の構造と機能、運動力学に関する基礎を学ぶ。そこから、運動を行う身体構造の理解と運動の力学的な理解に役立てる。

【到達目標】 骨・関節・筋の基本的な構造と機能を理解し、構造や動きなどがイメージできるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	骨の機能と分類	池田
2	骨の構造と発生、再構築	池田
3	関節の構造と付属装置	池田
4	関節の分類 ①	池田
5	関節の分類 ②	池田
6	筋の種類と形、補助装置	池田
7	骨格筋の構造、筋収縮の機序	池田
8	骨格筋線維	池田
9	骨格筋の神経 ①	池田
10	骨格筋の神経 ②	池田
11	運動の中樞神経機構(反射関連)	池田
12	運動の中樞神経機構(運動制御・学習)	池田
13	生体力学 ①	池田
14	生体力学 ②	池田
15	振り返り・まとめ	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「基礎運動学」(医歯薬出版) 「新版PT・OT・STのための解剖学」(廣川書店)

【参考図書】 「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス」(医学書院)

【評価基準】 定期試験70%・小テスト30%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 運動学(後期)

授業形態： 講義・演習

担当教員： 池田 真一

【授業概要】 人体の姿勢や姿勢制御について理解し、姿勢分析や動作分析をグループ学習や演習、実際の症例を通して学ぶ。

歩行の概要やメカニズムを理解し、分析方法を学ぶ。

【到達目標】 人体の姿勢や姿勢制御を理解し、分析方法を習得する。

基本動作(寝返り・起き上がり・起立着座)を理解し、動作分析方法を習得する。

歩行について理解し、分析能力を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	姿勢制御、重心、安定性	池田
2	重心線演習	池田
3	姿勢分析演習	池田
4	寝返り、起き上がり動作の概要(演習)	池田
5	寝返り、起き上がり動作の分析(症例)	池田
6	起立・着座動作の概要(演習)	池田
7	起立・着座動作の分析(症例)	池田
8	歩行の概要	池田
9	歩行周期 ①	池田
10	歩行周期 ②	池田
11	歩行時の関節運動	池田
12	歩行時の筋活動 ①	池田
13	歩行時の筋活動 ②	池田
14	小児・高齢者の歩行、走行	池田
15	歩行のまとめ	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「基礎運動学」(医歯薬出版) 「新版PT・OT・STのための解剖学」(廣川書店)

【参考図書】 「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版) 「観察による歩行分析」(医学書院)

【評価基準】 定期試験70%・小テスト30%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 骨については突起や窪みの意味を理解する。骨の連結については、関節面の形や靭帯の機能を理解する。

【到達目標】 骨の突起や窪みについて説明できる。
骨を立体的にイメージでき、体表よりランドマークとなる部位の触察とマーキングができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	身体の部位の名称について、身体の面・軸について	荒田
2	屈曲、伸展、外転、内転、回旋などの運動方向について	荒田
3	頭蓋・椎骨の突起や窪み、名称について	荒田
4	頭蓋・頸椎・胸椎・腰椎の関節構造について	荒田
5	頭蓋・椎骨について、関節面の形や靭帯の付着部位について	荒田
6	頭蓋・頸椎・胸椎・腰椎の動きについて	荒田
7	上肢帯・上肢の骨の突起や窪み、名称について	荒田
8	上肢帯・上肢の関節の関節構造について	荒田
9	上肢帯・上肢の骨について、関節面の形や靭帯の付着部位について	荒田
10	上肢帯・上肢の関節の動きについて	荒田
11	下肢帯・下肢の骨の突起や窪み、名称について	荒田
12	下肢帯・下肢の関節の関節構造について	荒田
13	下肢帯・下肢の骨について、関節面の形や靭帯の付着部位について	荒田
14	下肢帯・下肢の関節の動きについて	荒田
15	頸椎・胸椎・腰椎の骨について、形の理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	荒田
16	頸椎・胸椎・腰椎の関節について、動きの理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	荒田
17	上肢帯・上肢の骨について、形の理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	荒田
18	上肢帯・上肢の関節について、動きの理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	荒田
19	下肢帯・下肢の骨について、形の理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	荒田
20	下肢帯・下肢の関節について、動きの理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	荒田
21	支配神経、髄節レベルについて	荒田
22	支配神経、髄節レベルと支配筋との関係について	荒田
23	関節構造と動きについて(関節標本を用いて)	荒田
24	体表より関節裂隙の触診とマーキングを行う(上肢)	荒田
25	体表より骨のランドマークとなる部位の触察とマーキングを行う	荒田
26	体表より関節裂隙の触診とマーキングを行う(体幹・下肢)	荒田
27	僧帽筋・胸鎖乳突筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	荒田
28	肩甲挙筋・菱形筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	荒田
29	棘上筋・棘下筋・小円筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	荒田
30	大円筋・広背筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	荒田
31	定期試験	荒田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「新版PT・OT・STのための解剖学」(廣川書店)「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系第3版」(医学書院)
「筋骨格系のキネオロジー」(医歯薬出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験50% 小テスト30% レポート20%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 骨格筋の作用・起始・停止・支配神経・髄節レベルについて理解する。各骨格筋の位置関係を理解する。

【到達目標】 骨格筋の作用・起始・停止・支配神経・髄節レベルを説明でき、表層の骨格筋については体表よりマーキングできる。自分自身の体で骨格筋の動きを表現できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	肩甲下筋・前鋸筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
2	三角筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
3	上腕三頭筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
4	上腕筋・上腕二頭筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
5	前腕伸筋群の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
6	前腕伸筋群の起始、停止、作用、支配神経について②	荒田
7	前腕屈筋群の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
8	前腕屈筋群の起始、停止、作用、支配神経について②	荒田
9	大腿筋膜張筋・縫工筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
10	大腿四頭筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
11	ハムストリングスの起始、停止、作用、支配神経について	荒田
12	大腿内転筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
13	下腿前面の筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
14	下腿後面の筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
15	背部の筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
16	腰部の筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
17	胸筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
18	腹筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
19	殿筋の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
20	股関節外旋筋群の起始、停止、作用、支配神経について	荒田
21	上肢帯の筋の触察	荒田
22	上腕の筋の触察	荒田
23	前腕の筋の触察	荒田
24	手の筋の触察	荒田
25	下肢帯の筋の触察	荒田
26	体幹の筋の触察	荒田
27	大腿の筋の触察	荒田
28	下腿の筋の触察	荒田
29	実技試験	荒田
30	実技試験	荒田
31	呼吸筋について	荒田
32	顔面の筋について	荒田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「新版PT・OT・STのための解剖学」（廣川書店） 「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）
「筋骨格系のキネオロジー」（医歯薬出版）

【参考図書】

【評価基準】 小テスト50% レポート10% 実技試験40%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上

【授業概要】 からだの各器官がそれぞれどのような働きをし、どのように連携してからだの恒常性を維持しているかを理解する。

【到達目標】 からだの各器官、組織、細胞の働きを学び、さまざまな疾患の病態、症状を理解するための基礎的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	生命現象と人体(エネルギー生産)	横山
2	生命現象と人体(水と浸透圧)	横山
3	細胞の構造と機能(細胞の構造)	横山
4	細胞の構造と機能(活動電位)	横山
5	神経の興奮伝導	横山
6	末梢神経	横山
7	シナプス	横山
8	中枢神経(脊髄)	横山
9	中枢神経(脳)	横山
10	中枢神経(脳幹)	横山
11	中枢神経(大脳皮質-新皮質-)	横山
12	中枢神経(大脳皮質-辺縁系-)	横山
13	中枢神経(小脳)	横山
14	中枢神経(間脳)	横山
15	中枢神経(脳脊髄液)	横山
16	中枢神経(脳の高次機能①)	横山
17	中枢神経(脳の高次機能②)	横山
18	筋と骨(骨格筋、心筋)	横山
19	筋と骨(平滑筋、骨)	横山
20	感覚(体性感覚)	横山
21	感覚(特殊感覚)	横山
22	血液(組成、血球、血漿)	横山
23	血液(血液型)	横山
24	心臓と循環(心筋、刺激伝導系)	横山
25	心臓と循環(心電図)	横山
26	心臓と循環(血圧、心周期)	横山
27	心臓と循環(血圧の調節)	横山
28	心臓と循環(微小循環、静脈還流)	横山
29	心臓と循環(微小循環)	横山
30	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院) 「PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート」(医歯薬出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 からだの各器官がそれぞれどのような働きをし、どのように連携してからだの恒常性を維持しているかを理解する。

【到達目標】 からだの各器官、組織、細胞の働きを学び、さまざまな疾患の病態、症状を理解するための基礎的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	呼吸とガスの運搬(気道)	横山
2	呼吸とガスの運搬(呼気運動)	横山
3	呼吸とガスの運搬(肺気量)	横山
4	呼吸とガスの運搬(ガス運搬)	横山
5	呼吸とガスの運搬(呼気の調節)	横山
6	呼吸とガスの運搬(病的呼吸)	横山
7	尿の生成と排泄(尿の生成)	横山
8	尿の生成と排泄(ネフロン)	横山
9	尿の生成と排泄(クリアランス)	横山
10	尿の生成と排泄(排尿)	横山
11	酸塩基平衡(pH調節)	横山
12	酸塩基平衡(アシドーシスとアルカローシス)	横山
13	消化と吸収(消化の仕組み①)	横山
14	消化と吸収(消化の仕組み②)	横山
15	消化と吸収(栄養素の吸収)	横山
16	消化と吸収(大腸)	横山
17	消化と吸収(肝臓)	横山
18	内分泌(ホルモンの種類)	横山
19	内分泌(各ホルモンの作用①)	横山
20	内分泌(各ホルモンの作用②)	横山
21	内分泌(各ホルモンの作用③)	横山
22	代謝と体温(エネルギー代謝)	横山
23	代謝と体温(体温)	横山
24	生殖と発生(生殖機能)	横山
25	生殖と発生(受精)	横山
26	生殖と発生(妊娠)	横山
27	生殖と発生(分娩)	横山
28	運動生理(運動に伴う変化)	横山
29	運動生理(老化)	横山
30	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院) 「PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート」(医歯薬出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 臨床心理学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 篠原 美穂

2単位

【授業概要】 臨床心理学の視点から基本的な人の心の理解と支援の在り方について紹介する。また国家試験対策として、臨床心理学に関する演習問題に取り組む。

【到達目標】 臨床心理学の知見を概観しながら、人の心を科学的に理解する視点を持てるようになることを目指す。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	篠原
2	臨床心理学とは	篠原
3	臨床心理学的アセスメント① 発達および知能検査	篠原
4	臨床心理学的アセスメント② 質問紙法	篠原
5	臨床心理学的アセスメント③ 投影法	篠原
6	臨床心理面接技法① 精神分析療法	篠原
7	臨床心理面接技法② クライアント中心療法	篠原
8	臨床心理面接技法③ 行動療法・認知療法・認知行動療法	篠原
9	その他の心理療法	篠原
10	発達に関する障害の理解と支援	篠原
11	うつの理解と支援	篠原
12	身体の不調に関する心理的問題の理解と支援	篠原
13	パーソナリティ障害の理解と支援	篠原
14	リハビリテーション現場での心理的支援の実際	篠原
15	まとめ	篠原
16	定期試験	篠原

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「リハベーシック心理学・臨床心理学」(医歯薬出版)および配布資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90%

【実務経験】 授業態度10%：①忘れ物(教科書・配付資料など)なく授業へ参加 ②私語や居眠りなどなく授業に参加

【授業概要】 医療に従事するにあたり必要な病理学概論について解説する。

【到達目標】 日本人の死因として重要な病気、罹患率の高い病気、病気のメカニズムについて知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	イントロダクション	濱田
2	病理学の領域	濱田
3	細胞・組織とその障害①	濱田
4	細胞・組織とその障害②	濱田
5	再生と修復	濱田
6	循環障害	濱田
7	炎症	濱田
8	免疫とアレルギー	濱田
9	感染症	濱田
10	代謝異常	濱田
11	老化と老年学	濱田
12	新生児の病理	濱田
13	先天異常	濱田
14	腫瘍	濱田
15	生命の危機	濱田
16	定期試験	濱田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「カラーで学べる病理学」（ヌーヴェルヒロカワ）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 内科学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂恵理

通年 4単位

【授業概要】 各疾患を学ぶ。問題集を使用することもあるので、その際にはあてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 各疾患の症候とその病態生理、治療法、予後などを理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	内科学とは	赤坂
2	内科的診断と治療の実際	赤坂
3	症候学	赤坂
4	循環器疾患①	赤坂
5	循環器疾患②	赤坂
6	循環器疾患③	赤坂
7	呼吸器疾患①	赤坂
8	呼吸器疾患②	赤坂
9	消化器疾患①	赤坂
10	消化器疾患②	赤坂
11	肝胆膵疾患①	赤坂
12	肝胆膵疾患②	赤坂
13	肝胆膵疾患③	赤坂
14	血液・造血器疾患①	赤坂
15	血液・造血器疾患②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 内科学」(医学書院)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%

科目名： 内科学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂恵理

【授業概要】 各疾患を学ぶ。問題集を使用することもあるので、その際にはあてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 各疾患の症候とその病態生理、治療法、予後などを理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	栄養学①	赤坂
2	栄養学②	赤坂
3	栄養学③	赤坂
4	代謝性疾患①	赤坂
5	代謝性疾患②	赤坂
6	代謝性疾患③	赤坂
7	内分泌疾患①	赤坂
8	内分泌疾患②	赤坂
9	腎・泌尿器疾患①	赤坂
10	腎・泌尿器疾患②	赤坂
11	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症①	赤坂
12	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症②	赤坂
13	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症③	赤坂
14	感染症①	赤坂
15	感染症②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 内科学」(医学書院)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%

科目名： 神経内科学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 横山幸三

通年 4単位

【授業概要】 リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病因、病態がもたらす機能障害や能力障害と、それらに対する治療法を理解する。

【到達目標】 リハビリテーションカンファレンスで他の職種と情報交換を行う際に求められる神経疾患に対する医学的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	神経症候(高次脳機能障害、失語)	横山
2	神経症候(失認症、失行)	横山
3	神経症候(認知症)	横山
4	神経症候(運動失調)	横山
5	神経症候(意識障害)	横山
6	神経症候(嚥下障害、構音障害)	横山
7	神経症候(錐体路徴候)	横山
8	神経症候(錐体外路徴候)	横山
9	神経症候(感覚障害)	横山
10	神経症候(脳圧亢進・脳ヘルニア)	横山
11	神経症候(神経因性排尿障害)	横山
12	神経症候(末梢神経徴候)	横山
13	脳血管障害(分類)	横山
14	脳血管障害(症状、治療法)	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT基礎から学ぶ:神経内科学ノート」(医歯薬出版社) 「病気がみえる Vol.7 脳・神経」(メディックメディア)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 神経内科学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 横山幸三

【授業概要】 リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病因、病態がもたらす機能障害や能力障害と、それらに対する治療法を理解する。

【到達目標】 リハビリテーションカンファレンスで他の職種と情報交換を行う際に求められる神経疾患に対する医学的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	中枢神経変性疾患(皮質・基底核)	横山
2	中枢神経変性疾患(脊髄小脳・脊髄)	横山
3	中枢神経変性疾患(中枢神経)	横山
4	中枢神経変性疾患(末梢神経)	横山
5	脳腫瘍(総論)	横山
6	脳腫瘍(各論)	横山
7	末梢神経障害(概念と分類)	横山
8	末梢神経障害(末梢性ニューロパチー)	横山
9	筋原性筋委縮疾患(筋ジストロフィー①)	横山
10	筋原性筋委縮疾患(筋ジストロフィー②)	横山
11	神経感染症疾患(総論)	横山
12	神経感染症疾患(各論)	横山
13	小児神経疾患	横山
14	神経疾患合併症	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT基礎から学ぶ:神経内科学ノート」(医歯薬出版社) 「病気がみえる Vol.7 脳・神経」(メディックメディア)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 精神医学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 園屋 和之

通年 4単位

【授業概要】 精神医学の概念・歴史を学ぶ。
精神機能の障害と精神症状について学ぶ。
精神疾患(器質性精神障害, 統合失調症, アルコール関連, 薬物関連等)についての特性・症状を学ぶ。

【到達目標】 精神医学の概念・歴史を理解し修得する。
基本の精神機能・精神症状並びに精神疾患の特性・症状を理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	精神医学概念・精神医学の歴史, 精神障害の成因と分類	園屋
2	精神機能の障害と精神状態①	園屋
3	精神機能の障害と精神状態②	園屋
4	精神機能の障害と精神状態③, 精神障害の診断と評価	園屋
5	器質性精神障害①	園屋
6	器質性精神障害②	園屋
7	統合失調症①	園屋
8	統合失調症②	園屋
9	統合失調症③	園屋
10	統合失調症④	園屋
11	アルコール関連①	園屋
12	アルコール関連②	園屋
13	薬物関連①	園屋
14	薬物関連②	園屋
15	総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「現代臨床精神医学」(金原出版)
【参考図書】 「標準理学療法学・作業療法学 精神医学」(医学書院)
【評価基準】 定期試験 85% 小テスト 10% レポート 5%
【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 精神医学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 園屋 和之

【授業概要】 精神疾患(気分障害, 神経症性障害, 生理的障害, パーソナリティ障害等)についての特性・症状を学ぶ。
精神障害の治療並びに精神科保健医療等について学ぶ。

【到達目標】 基本の精神機能・精神症状並びに精神疾患の特性・症状を理解し修得する。
精神障害の治療, 精神科保健医療, メンタルヘルスを理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	気分障害①	園屋
2	気分障害②	園屋
3	気分障害③	園屋
4	気分障害④	園屋
5	神経症性障害①	園屋
6	神経症性障害②	園屋
7	神経症性障害③	園屋
8	神経症性障害④	園屋
9	生理的障害および身体要因に関連した障害①	園屋
10	生理的障害および身体要因に関連した障害②	園屋
11	パーソナリティ障害	園屋
12	ライフサイクルにおける精神医学, コンサルテーション・リエゾン精神医学	園屋
13	精神障害の治療とリハビリテーション	園屋
14	精神科保健医療とメンタルヘルス	園屋
15	総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「現代臨床精神医学」(金原出版)
【参考図書】 「標準理学療法学・作業療法学 精神医学」(医学書院)
【評価基準】 定期試験 85% 小テスト 10% レポート 5%
【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 医療に携わることをめざす時に、医療の歴史、医療観の変遷を知り、現代医療の現状と問題点を明らかにして、日本のめざす医療システムを理解する。

【到達目標】 健康や障害の概念、いのちの尊厳を学び、外来診療のシステムに対する基本的知識の習得に努める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	いのちと健康	横山
2	医療的ケアと管理	横山
3	現代医学の起源	横山
4	医療観の移り変わり	横山
5	外来診療のプロセス	横山
6	障害者のノーマライゼーション	横山
7	現代医療の最前線	横山
8	医原病という考え方	横山
9	インフォームド・コンセント	横山
10	臨床疫学	横山
11	プライマリーケアの新たな展開	横山
12	在宅医療	横山
13	情報化社会と医療	横山
14	地域包括医療システム	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「系統看護学講座 別巻 総合医療論」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 作業活動の特性を知り、治療手段として用いるための基本知識・見解を知る。
作業活動の工程を知り、作業活動に用いられる主な技法を知る。
体験を通じて作業活動の活動分析・動作分析を知る。

【到達目標】 作業活動を作業療法の治療手段として活用する目的を理解する。また、作業活動の楽しさを体験し、伝授できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	ひとと作業・作業活動（作業・活動の効果）	満吉
2	ひとと作業・作業活動（作業・活動の効果）	満吉
3	作業・作業活動と生活機能	満吉
4	作業分析について	満吉
5	作業・活動特性について（革細工）①	満吉
6	作業・活動演習（革細工）②	満吉
7	作業・活動演習（革細工）③	満吉
8	作業・活動演習（革細工）④	満吉
9	作業・活動演習（革細工）⑤	満吉
10	作業・活動演習（革細工）⑥	満吉
11	作業・活動特性について（園芸）①	満吉
12	作業・活動特性について（陶芸）①	満吉
13	作業・活動演習（陶芸）②	満吉
14	作業・活動演習（陶芸）③	満吉
15	作業・活動演習（園芸）②	満吉
16	作業・活動演習（園芸）③	満吉
17	作業・活動演習（陶芸）④	満吉
18	作業・活動演習（陶芸）⑤	満吉
19	作業・活動演習（園芸）④	満吉
20	作業・活動演習（園芸）⑤	満吉
21	作業・活動演習（陶芸）⑥	満吉
22	作業・活動演習（陶芸）⑦	満吉
23	作業・活動特性について（木工）①	満吉
24	作業・活動演習（木工）②	満吉
25	作業・活動演習（木工）③	満吉
26	作業・活動演習（木工）④	満吉
27	作業・活動演習（木工）⑤	満吉
28	作業・活動演習（木工）⑥	満吉
29	活動と物品管理について	満吉
30	活動と物品管理について	満吉
31	定期試験	満吉

【授業外学修】 予習：教科書・資料等にて活動内容や使用物品の確認をしておくこと（約30分）

復習：活動内容を振り返り、理解を深めること（約30分）

【教科書名】 「ひとと作業・作業活動 新版」（三輪書店）「作業活動実習マニュアル」（医歯薬出版）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験50% 作品完成・遂行具合30% 授業態度20%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 作業療法概論(前期)

授業形態： 講義・演習

担当教員： 園屋 和之 他
通年 4単位

【授業概要】

リハビリテーション並びに作業療法の概要、歴史や現状を理解し、作業療法士に求められる資質や適性を学ぶ。
レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を学ぶ。
グループワークを通し、医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を学ぶ。

【到達目標】

リハビリテーション並びに作業療法の概要、歴史や現状を理解し、作業療法士に求められる資質や適性を修得する。
レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を修得する。
グループワークを通し、医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	園屋
2	リハビリテーションの定義・位置づけの変遷	園屋
3	リハビリテーションの中の作業療法(歴史・定義)	園屋
4	リハビリテーションの中の作業療法(教育体系),レポート作成,参考文献と引用の記載	園屋
5	作業療法士に求められる資質と適性(レポート作成)	園屋 他
6	作業療法士に求められる資質と適性(レポート作成)	園屋 他
7	作業療法士に求められる資質と適性(レポート作成)	園屋 他
8	作業療法士に求められる資質と適性(レポート作成)	園屋 他
9	作業療法士に求められる資質と適性(発表)	園屋 他
10	作業療法の対象及び実際(講義)	園屋 他
11	作業療法の対象及び実際(レポート作成)	園屋 他
12	作業療法の対象及び実際(レポート作成)	園屋 他
13	作業療法の対象及び実際(レポート作成)	園屋 他
14	作業療法の対象及び実際(レポート作成)	園屋 他
15	作業療法の対象及び実際(発表)	園屋 他

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第3版」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 レポート,課題への取り組み姿勢(責任感,協調性など)100%

【実務経験】 作業療法士,病院における臨床5年以上,週1回学外臨床参加

科目名： 作業療法概論(後期)

授業形態： 講義・演習

担当教員： 園屋 和之 他

【授業概要】

リハビリテーション並びに作業療法の概要を理解し、作業療法並びに医療を学ぶ上での指針を知る。
レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を学ぶ。
グループワークを通し、医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を学ぶ。

【到達目標】

リハビリテーション並びに作業療法の概要を理解し、作業療法並びに医療を学ぶ上での指針を理解し修得する。
レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を修得する。
グループワークを通し、医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	コンプライアンス,ハラスメントについて	園屋
2	医療広告ガイドライン,コンフリクトマネジメント,記録と報告について	園屋
3	各分野における作業療法の実践過程(講義)	園屋 他
4	各分野における作業療法の実践過程(講義)	園屋 他
5	各分野における作業療法の実践過程(レポート,スライド作成)	園屋 他
6	各分野における作業療法の実践過程(レポート,スライド作成)	園屋 他
7	各分野における作業療法の実践過程(レポート,スライド作成)	園屋 他
8	各分野における作業療法の実践過程(レポート,スライド作成)	園屋 他
9	各分野における作業療法の実践過程(発表)	園屋 他
10	障害受容とQOL(講義,レポート,ポスター作成)	園屋 他
11	障害受容とQOL(レポート,ポスター作成)	園屋 他
12	障害受容とQOL(レポート,ポスター作成)	園屋 他
13	障害受容とQOL(レポート,ポスター作成)	園屋 他
14	障害受容とQOL(レポート,ポスター作成)	園屋 他
15	障害受容とQOL(発表)	園屋 他

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第3版」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 レポート,課題への取り組み姿勢(責任感,協調性など)100%

【実務経験】 作業療法士,病院における臨床5年以上,週1回学外臨床参加

【授業概要】 作業療法で用いられる評価の基本的考え方とその使用方法について学ぶ。
各検査法の知識と技術を学ぶ。

【到達目標】 検査ごとの特性を理解し必要な検査項目を列挙することができる。
各検査技術および検者としてふさわしい所作を身につけ、被検者に対してスムーズな検査の実行ができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	評価概要と専門用語について	満吉
2	諸検査法の種類と特性	満吉
3	観察と面接 評価・分析のポイント	満吉
4	肢位・姿勢について(講義)	満吉
5	肢位・姿勢について(実技)	満吉
6	意識・生理機能検査 バイタルサインの評価①	満吉
7	意識・生理機能検査 バイタルサインの評価②	満吉
8	形態測定(講義)	満吉
9	形態測定(実技)	満吉
10	形態測定(実技)	満吉
11	実技試験:バイタル測定と形態測定	満吉
12	実技試験:バイタル測定と形態測定	満吉
13	関節可動域の検査法(講義)	満吉
14	関節可動域の検査法(実技)①	満吉
15	関節可動域の検査法(実技)②	満吉
16	関節可動域の検査法(実技)③	満吉
17	関節可動域の検査法(実技)④	満吉
18	関節可動域の検査法(実技)⑤	満吉
19	関節可動域の検査法(実技)⑥	満吉
20	関節可動域の検査法(実技)⑦	満吉
21	関節可動域の検査法(実技)⑧	満吉
22	実技試験:関節可動域測定	満吉
23	実技試験:関節可動域測定	満吉
24	脳神経系の検査(講義と実技)①	満吉
25	脳神経系の検査(講義と実技)②	満吉
26	脳神経系の検査(講義と実技)③	満吉
27	脳神経系の検査(講義と実技)④	満吉
28	脳神経系の検査(講義と実技)⑤	満吉
29	実技試験:脳神経系の検査	満吉
30	実技試験:脳神経系の検査	満吉
31	定期試験	満吉

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」(医学書院)

【参考図書】 「PT・OTのための評価測定 ROM測定」(三輪書店)

【評価基準】 定期試験50% 実技試験40% 小テスト10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 作業療法で用いられる評価の基本的考え方とその使用方法について学ぶ。
各検査法の知識と技術を学ぶ。

【到達目標】 検査ごとの特性を理解し必要な検査項目を列挙することができる。
各検査技術および検者としてふさわしい所作を身につけ、被検者に対してスムーズな検査の実行ができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	感覚機能検査法(講義)	満吉
2	感覚機能検査法(実技)①	満吉
3	感覚機能検査法(実技)②	満吉
4	感覚機能検査法(実技試験)	満吉
5	感覚機能検査法(実技試験)	満吉
6	徒手筋力検査法(講義)	満吉
7	徒手筋力検査法(講義)	満吉
8	徒手筋力検査法(実技):体幹	満吉
9	徒手筋力検査法(実技):体幹	満吉
10	徒手筋力検査法(実技):肩甲帯	満吉
11	徒手筋力検査法(実技):肩甲帯	満吉
12	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
13	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
14	徒手筋力検査法(実技):上肢	満吉
15	徒手筋力検査法(実技):上肢	満吉
16	徒手筋力検査法(実技):上肢	満吉
17	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
18	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
19	徒手筋力検査法(実技):手指	満吉
20	徒手筋力検査法(実技):手指	満吉
21	徒手筋力検査法(実技):手指	満吉
22	徒手筋力検査法(実技):手指	満吉
23	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
24	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
25	徒手筋力検査法(実技):下肢	満吉
26	徒手筋力検査法(実技):下肢	満吉
27	徒手筋力検査法(実技):下肢	満吉
28	徒手筋力検査法(実技):下肢	満吉
29	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
30	徒手筋力検査法(実技試験)	満吉
31	定期試験	満吉

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」(医学書院)
「新・徒手筋力検査法」(共同医書出版社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験50% 実技試験40% 小テスト10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 見学実習(後期) 授業形態： 実習 担当教員： 植村健一・池田真一・満吉幸一・荒田美穂・橋口信洋・園屋和之
1単位

【授業概要】 臨床場面において、作業療法士の業務内容(評価、目標設定、プログラム立案、治療、再評価、報告、記録等)および他スタッフとの関わり方、対象者との信頼関係の構築等を見学・体験する。作業療法対象疾患を臨床場面で学ぶ。

【到達目標】 作業療法士の業務内容(評価、目標設定、プログラム立案、治療、再評価、報告、記録等)を説明することができる。社会人として相応しいコミュニケーションをとることができるようになる。

【授業の進め方】

授 業 内 容
実習施設において5日間の見学実習を行う 1) 実習目的 作業療法評価、プログラム立案、治療、報告、記録の一連の業務を見学・体験する。 対象者との接し方、他スタッフとの関わり方を見学・体験する
2) 指導担当者 臨床実習指導者・担当教員

【授業外学修】 予習:実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「これで安心PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 実習成績80%・レポートと症例発表20%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加